

令和2年度第2回宮城県地域医療構想調整会議（仙南区域）

日 時 令和3年1月26日（火）
午後5時30分から午後7時00分まで
場 所 大河原合同庁舎別館2階大会議室

次 第

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 議 事

- (1) 病床機能再編支援補助金について 資料1
(2) その他

- 4 報 告

宮城県地域医療構想推進支援事業について 資料2

- 5 そ の 他（情報提供）

「地域連携薬局」及び「専門医療機関連携薬局」の認定制度について . . . 資料3

- 6 閉 会

< 配 付 資 料 >

-
- (資料1-1) 病床機能再編支援補助金について
(資料1-2) 病床機能再編支援補助金を申請予定の医療機関（仙南区域）の事業計画（案）について
(資料2) 二次医療圏別の概況について
(資料3) 「地域連携薬局」及び「専門医療機関連携薬局」の認定制度の御案内
(参考資料) 公立刈田総合病院とみやぎ県南中核病院における医療連携について

令和2年度第2回宮城県地域医療構想調整会議(仙南区域) 出席者名簿

【委員】

(順不同・敬称略)

分野	No	氏名	所属	備考
医師会	1	佐藤 和宏	宮城県医師会 会長	自院等
	2	小松 和久	白石市医師会 会長	座長・大河原会場
	3	平井 完史	柴田郡医師会 会長	自院等
	4	高山 敦	角田市医師会 会長	自院等
歯科医師会	5	玉野井 修	仙南歯科医師会 会長	大河原会場
薬剤師会	6	瀬戸 裕一	仙南薬剤師会 理事	自院等
看護協会	7	曾根田 浩子	宮城県看護協会 仙南支部支部長	自院等
病院	8	宮崎 修吉	みやぎ県南中核病院 院長	自院等
	9	大橋 洋一	公立刈田総合病院 院長	自院等
	10	大友 正隆	丸森町国民健康保険丸森病院 院長	大河原会場
	11	内山 美寧	国民健康保険川崎病院 院長	自院等
	12	酒井 謙次	蔵王町国民健康保険蔵王病院 院長	欠席
	13	松本 純	大泉記念病院 院長	自院等
	14	早坂 弘人	仙南病院 院長	代理:本多 正久 理事長 大河原会場
	15	安藤 正夫	金上病院 院長	自院等
保険者	16	曾根 正樹	全国健康保険協会宮城支部 業務部長	自院等
	17	岩淵 昇	健康保険組合連合会宮城連合会 常任理事	県庁行政庁舎
市町村	18	後藤 滝雄	白石市保健福祉部 部長	自院等
	19	中村 方彦	角田市市民福祉部 部長	大河原会場
保健所	20	荒井 由美子	宮城県仙南保健所 所長	副座長・大河原会場

【地域医療構想アドバイザー】

氏名	所属	備考
藤 森 研 司	東北大学 大学院 医学系研究科・医学部 教授	自院等
石 井 正	東北大学病院 総合地域医療教育支援部 教授	自院等

【病院事業管理者】

氏名	所属	備考
山 田 裕 一	白石市外二町組合 管理者	自院等
下 瀬 川 徹	みやぎ県南中核病院企業団 企業長	大河原会場
伊 藤 貞 嘉	公立刈田総合病院 特別管理者	自院等

【東北厚生局】

氏名	所属	備考
竹 蓋 智 一	厚生労働省 東北厚生局 健康福祉部 医事課 地域医療構想等推進専門官	県庁行政庁舎

【事務局】

氏名	所属
佐 々 木 真	宮城県 保健福祉部 医療政策課長
千 葉 良 信	同 保健福祉部副参事 兼 医療政策課 課長補佐(総括担当)
日 野 貴 広	同 保健福祉部 医療政策課 課長補佐(企画推進班長)
内 海 昌 子	同 薬務課 課長補佐(総括担当)

1. 開 会

○司会

ただいまから、令和2年度第2回宮城県地域医療構想調整会議(仙南区域)を開催する。

2. 挨 拶

○司会

開会にあたり、県保健福祉部医療政策課長の佐々木からご挨拶申し上げます。

○佐々木県保健福祉部医療政策課長

【挨拶】

3. 議 事

○司会

本日の調整会議の座長は、白石市医師会小松会長にお願いしている。

○小松座長

次第に従い議事を進める。(1)病床機能再編支援補助金について事務局から説明をお願いする。

○事務局

【資料1により説明】

○小松座長

ただいまの説明について、公立刈田総合病院から説明をお願いする。

○大橋委員

令和2年度第2回地域医療構想調整会議の資料1-2について、ちょっとお聞きしたいが、よろしいか。「病床削減に係る方針・考え方」の項目の中で「②現下の新型コロナウイルス感染症へ対応する病床の確保が喫緊の課題であることなどから、来年度、事業計画の更なる精査、検討を行うこととします。」とあるが、これは県との話し合いの中で病床を減らさなくてもよいということか。

○事務局

連携プランについては、本日の参考資料の1枚目になるが、将来の姿として連携のあり方をお示しし、昨年度の11月の調整会議から議論していただいたところ。連携プランの

中では、令和3年の中で199床までダウンサイズするという内容を県と大学で提案し、調整会議で御了承いただいた。よって、連携プランとしては、先ほど事務局から説明したとおり、令和3年度中に199床までダウンサイズすると受け止めており、今回このような記載となっているものの、県としては従前の議論を踏まえて進められるものと理解している。

○荒井副座長

刈田病院においては、感染症指定医療機関として新型コロナ感染症の検査や患者の入院等で平素よりお世話になっており、感謝申し上げます。こうした状況の中、現在山田管理者は公設民営化を推進しているようであるが、仙南保健所としては、今後感染症への対応がどうなってしまうのかということ非常に危惧している。山田管理者は仮に公設民営化した場合でも、政策医療は引き続き担うという趣旨の発言をしていたかと思うが、現在新型コロナ感染症の感染拡大が続いている中、仮に刈田病院が公設民営化した場合でも感染症病床については、当然維持されるものと考えているが、よろしいか。

○山田白石市外二町組合管理者

非常に病院の経営状況、白石の財政状況が厳しいことから、先般、病院の経営形態を公設民営に変更できるという条例を専決処分した。これまでも一貫してこの仙南地域医療構想、中核病院と刈田病院の連携プランは何としても推進していかなくてはならないとの立場である。そういう中であって、刈田病院が閉院という最悪のシナリオを迎えてしまった場合には、この連携プランそのものが実現できなくなってしまうので、ありとあらゆる方法、経営形態の変更を検討しなければならないという思いからの条例改正である。

ただいま発言のあった感染症、そして当院は結核それぞれ4床ずつ、計8床ある。しかしながら、呼吸器の先生も現在いない状況の中で今後、当院が199床となるという方針はこのままでいくべきだと私は思うが、この199床の中に感染症と結核の8床を入れて199床とするのか、除いて199床とするのかは、詳細なところまでは決定されていないと思っている。199床と別かどうかということも含めて、ぜひ今後議論をする必要があると思っている。

○佐々木県保健福祉部医療政策課長

先日我々の方に、自治労あるいは職員組合の皆様から刈田病院の公営維持を求める要請書が提出されそれを受け取ったところ。この要請の中に、山田管理者が掲げる公設民営化の方向性について不安を感じている、自己都合退職を選んでいる職員が増えてきているといった記載があった。山田管理者がこの点についてどのように考えているのか伺いたい。

また、このような状況にあっても必要な医師・看護師は着実に確保しなければならない。

そのことについても御意見を聞かせて欲しい。

○山田白石市外二町組合管理者

当院で勤務している職員の皆が不安を抱いているということは、重々承知をしている。私としても先ほども申し上げたとおり、刈田病院が万が一閉院ということになってしまえば、地域の命と健康を守る砦がなくなってしまうことになり、あわせて職員の皆からすれば働く場所がなくなってしまうことになってしまう。そういった最悪の状況を迎えないようにするためにありとあらゆる方策を検討することは非常に重要であると考えている。このコロナ禍の中で、医療従事者の皆には本当に命を削って日々仕事をしてもらっていることについては、厚く感謝申し上げるし、何としても刈田病院を守り、この中核病院と刈田病院の連携プランをしっかりと推進するために、ありとあらゆる方法を検討するということであって、決して公設民営ありきということではないことは理解いただきたい。

○佐々木県保健福祉部医療政策課長

連携プランの実現にあたっては、2点目で申し上げた、医療従事者の確保は必要なことだと思うので、より具体的な対応を検討いただくよう要望させていただく。

○小松座長

続いて、民間病院からの視点として松本委員から発言をお願いします。

○松本委員

白石市長の様々な話が出ているが、刈田病院の公設民営化というのがよく分からない。赤字になったときのバックアップを市が行うのか、経営的なところは全て民営の会社が請け負うことになるのか。もし后者であれば、公的病院というのは不採算部門を中心にやっていくと思うが、それができなくなる。例えば、救急もそうだが心臓外科の手術もできなくなる。不採算部門といえ、感染症もそうだと思うが、公的病院がやってきたそうした機能を失うことにならないか、一番心配している。

○小松座長

続いて、安藤委員から発言をお願いします。

○安藤委員

我々も民間として公的な助成等がない中で、運営は正直苦しく、突き詰めるところは突き詰めて経営を継続しているのが現状である。公的病院の先生方には御理解いただけないこともあるかと思うが。そういう中で、刈田病院さんの方から看護師さんをどうか

というお伺いや御相談をいただくが、やはり公立と民間では給与が全く違う。公務員としての立場、今までの既得権益を維持したままやっていくという形では、財政的に非常に厳しいという状況は十分理解できる。

一方で、議員さんたちは市民の代表だとは思いますが、白石市民は何を求めているのか。小松座長ともお話をしたが、白石市医師会の先生も角田市医師会と同様に高齢化しており、開業医の先生だけでは地域の医療を支えていくのがなかなか難しい中、刈田病院が本当に地域の住民に望まれていることは何なのか。

住民の思いと政治家の思いと市の思いが本当にうまくいっているのだろうかと感じる。これから高齢化するにあたって、自宅で訪問診療・訪問看護を受けなくてはいけない人が沢山いると思う。白石市医師会でももちろん訪問看護ステーションを持たれているが、本当に大変な思いをして所長さんも頑張っている。白石市や七ヶ宿町、蔵王町で今後高齢者に対して、医療・介護・福祉をどのように提供していくのか。

刈田病院がどのような役割を果たすべきかを考えると、果たして周産期や救急の手術をやる病院を作ることが、本当に大事なことなのかなと思う。正直、疑問に思うところがあり、もう少し原点に帰り話し合う必要があるのではないかと感じている。

○小松座長

続いて、下瀬川企業長から発言をお願いします。

○下瀬川みやぎ県南中核病院企業団企業長

今回、46床減床するというので、これまでの刈田病院と当院の連携プランに従って進めていただいたことは大変大事なことだと思う。特に最近思うのが、刈田病院はコロナの対応等で、職員の方々、医師、看護師が非常に一生懸命やっている。それで当院も随分助けられているところがあって、やはり地域の感染症や救急を守るためには、一つの病院だけでなく連携しながらやっていくことの大事さというのは改めて感じた。以前から佐藤委員がおっしゃられているように、刈田病院の役割がなくなってしまうと当院の負担が大きくなって当院も立ち行かなくなってしまうのではないかと、ということがまさにあると思う。

そういった中で公設民営にするのか、あるいは公設公営のままなのか、これについては市の問題であり、先ほど安藤委員がいわれたとおり、市民の方々の考えが、どのように反映されるかによって決まる。その最終的な判断は山田市長にあると思うので、そこについて、我々は口出しをしないししたくないが、何よりも大事なのは刈田病院が存続すること。山田市長が言ったとおりである。それで初めて連携が成り立つので、大学や県の指導でやってきたこの枠組みを大事にしながら、今後ともこの連携は継続して、より良い医療体制をこの仙南地域に作り上げていくことは継続していきたいと思っているので、今後ともよろしく願います。

○小松座長

続いて、荒井副座長から発言をお願いします。

○荒井副座長

先ほど山田管理者から199床の内か外かに置き換えて回答をされていたが、私が保健所としてお聞きしたかったのは、感染症対策を今後も守っていただけるのかという質問であった。もう一度お尋ねするが、感染症対策は維持いただけるのかお伺いしたい。

○山田白石市外二町組合管理者

令和2年度第2回地域医療構想調整会議参考資料、先ほど説明いただいたA3の下の表を参照願う。真ん中に診療科目、令和3年からとあるが感染症対策に関しては、実際のところ感染症対策の病床があればそれだけでいいのか、呼吸器等の先生がいてそういった対策もとれる体制が取れることが私は重要でないかと思っている。よって、これからも刈田病院が特色としてこの感染症と結核の8床を維持するという上では、呼吸器等が専門の先生の配置が重要ではないかというふうに考えている。

○荒井副座長

御回答感謝する。ただ呼吸器の専門医がというお話もあったが、地域においては条件がすべて整っていなくても感染症対策というか御対応いただいている病院もあるので、こちらの希望としては引き続き御対応いただきたいと思う。

○本多委員代理

山田管理者に少しお聞きしたい。一昨年の水害の際は刈田病院の透析部門に非常にお世話になった。刈田病院の持っている透析の機能は県全体としても重要であり、特に災害時の避難ができるキャパシティーを持っている。是非維持していただきたいと思っている。

他方で、最近当院でも結構受けているが、寝たきりというか病院から動けない方々に対する透析、この部分について療養病棟をさらに追加して行う構想があるやに聞いているが、この県南の医療圏については、慢性期の療養病棟の枠はもうないので、採算重視でそれを考えてというのは多分無理だと思う。

先ほど下瀬川企業長がおっしゃったように、中核病院と対になって初めて十全の機能を果たす病院になっていただけるよう祈念している。

○小松座長

ほかに質問がなければ、項目(1)については、これで終了とする。

○小松座長

続いて、(2) その他、皆様から何かあるか。

特にないようなので、これで終了とする。

○小松座長

続いて、宮城県地域医療構想推進支援事業について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

本事業は昨年度から実施したものであり、各医療圏の概況をまとめることと、個別の公立病院のコンサルティング支援を行うことを目的としている。株式会社日本経営及び七十銀行に委託しており、資料の詳細については、株式会社日本経営から説明いただく。

○株式会社日本経営

【説明】

○小松座長

ただいまの説明について質問等があればお願いします。

○安藤委員

色々なデータをいただきその通りだと思ふところ、正直な話、実情とはちょっと違うと思ふところがあった。このようなデータには必ず付きまとうものであるから、すべてが100%実情を反映するというデータにはならないと思ふ。しかし、やはり先ほど言ったように訪問看護や在宅医療について、この地区は非常に弱いという指摘をいただいた。病床再編という話になるとどうしても急性期の話を中心になってくるが、急性期が終わった後、当院のような回復期で受け取りリハビリを行う。しかしそのほとんどはスムーズには自宅に帰れない高齢者であることから、必要に応じて介護や福祉に結び付けるコーディネーターが必要になってくる。

コロナに関しても完璧にそのとおりで、我々は以前から慢性期医療協会でも言ってきたが、ポストコロナ：10日や2週間が経ち感染力がなくなったにもかかわらず、急性期の病床を占領してしまい、新しい患者を受け入れられない事態が絶対起こるということは、前々からみんなわかっていたことである。そういった人たちを早くリハビリして回復させ自宅に返したり、介護施設にお連れしたりといった、コーディネーターする病院が本当に必要なわけである。

また、訪問診療や訪問看護が全然話題になってこなかったことが、地域医療全体を見渡した時に、物事がうまく進んでいないことの非常に大きなポイントはここにあると常々考えていたが、今、日本経営のデータとしてもしっかり出されていて、よかったと思う。

これからはこのことについても刈田病院を含めてしっかり見ていかないと。医療だけでなく介護・福祉・生活・住居，色々なところに結び付いていわゆる地域包括ケアが成り立つのだから，医療だけで成り立つ話ではないということをぜひ今日の日本経営のデータからもわかっていただければいいと思う。いい話だと思って聞いていた。感謝申し上げます。

○曾根委員

今回のこの資料には，この会議に参加されていない病院のデータも記載されており，このようなエビデンスに基づいた資料があると議論がかなり深まるのではないかと考えている。このため，機能再編，病院間の連携や機能分担が円滑に進むよう，この会議に参加していない民間病院等も含めた形での，この資料に関する情報共有の場や検討の場を設けるべきと思うが，宮城県はこの資料を今後どのように活用していくのかをお聞きしたい。

○事務局

前回の調整会議でも民間病院のご提案をいただいたところであり，貴重なご意見だったと受け止めている。本日使用した資料についても，後日県のホームページで公開することを予定しているので，そういった活用を通じて多くの関係者の目に留まるように機会をとらえて，周知を図っていきたいと考えている。

○曾根委員

こういった検討を進める際には，地域住民に対し，宮城県の現状を正しく理解していただく必要がある。協会けんぽでは，事業所の担当者，約5千人に対し地域医療に関するアンケートを実施している。ちょうど昨日1月25日に送付したところで，アンケートの集計結果について，まとめ次第，宮城県に情報提供したいと考えているので，引き続きよろしく願います。

○小松座長

ほかに質問がなければ項目(2)についてはこれで終了とする。続いて，(3)「地域連携薬局」及び「専門医療機関連携薬局」の認定制度について，事務局から説明をお願いします。

○事務局

【資料3により説明】

○小松座長

ほかに質問がなければ，項目(3)については，これで終了とする。

地域医療構想アドバイザーの藤森先生から何かあるか。

○藤森地域医療構想アドバイザー

仙南地域は県内の医療資源の最も厳しい地域で、今後の医療を取り巻く状況がますます厳しくなっていくのかなと思う中、回復期の機能が圧倒的に足りないということで、公立刈田病院への期待は非常に大きなものがあると思っている。

介護施設系がかなり充実しているという特徴があるので、他の圏域に見られない特徴を上手く利用して、特に高齢者に関しては介護施設中心に医療を組み立ていくこともできる気がする。地域包括ケアシステムの推進も地域医療構想調整会議の検討事項であるので、是非議論を深めていただきたい。お手伝いさせていただく。

○小松座長

地域医療構想アドバイザーの石井先生から何かあるか。

○石井地域医療構想アドバイザー

私は地域医療構想アドバイザーのほかに新型コロナウイルス感染症の宮城県の本部にも入っており、それを踏まえて発言する。

刈田総合病院は公設民営化を検討されているということだが、先ほど荒井副座長もおっしゃられたように、感染病床については、仙南地域で完結して対応できるような体制を作られるよう、地域医療構想調整会議の中で検討いただくことを希望する。

○小松座長

そのほか、事務局から何かあるか。

○事務局

本日の会議資料及び議事録については、後日、県のホームページに掲載する予定なので、了承願う。

○小松座長

皆様の協力で無事、調整会議を終了することができた。司会進行を事務局に返す。

4. 閉 会

○司会

以上をもって、令和2年度第2回宮城県地域医療構想調整会議(仙南区域)を終了する。